

調査

統計からみた福島県と隣県のすがた

<要 旨>

1. 人 口

福島県の人口規模は、栃木県や群馬県と同規模、宮城県や新潟県に比しそれぞれ約40万人少なく、茨城県よりも約100万人少ない。全国順位は第21位である。

2. 県内総生産

福島県の全国順位が第20位であるのに対し、人口が同じ規模の栃木県は第16位、群馬県は第17位と人口規模に比べ大きい。宮城県は福島県の1.20倍、茨城県は同1.57倍の規模がある。

3. 事業所数

県土面積が広く事業所が各地に点在していることもあり、福島県の全国順位は、人口順位よりも上位の第19位である。栃木県や群馬県と同じ規模となっている。

4. 工 業

福島県の製造品出荷額等は東北第1位であるが、茨城県は福島県の2.45倍、栃木県は1.79倍、群馬県は1.84倍となっており、北関東3県の工業規模より小さい。

5. 商 業

小売業の商品販売額の全国順位は福島県第19位、宮城県第14位、茨城県第12位などおおよそ人口規模に比例している。一方、卸売業の商品販売額は、宮城県が福島県の3.40倍となる7兆6,815億円あり、特に仙台市に集中している。

6. 農 業

農業産出額の全国順位は福島県第17位、茨城県第2位、栃木県第9位、群馬県第10位などとなっており、北関東3県はいずれも上位10位までに入っている。

各県の人口・経済規模（福島県を1とした場合の各県の指数）

	人 口	総生産	事業所数	工 業	小売業	卸売業	農 業
宮 城 県	1.23	1.20	1.14	0.82	1.22	3.40	0.89
山 形 県	0.59	0.51	0.65	0.52	0.59	0.54	1.15
茨 城 県	1.54	1.57	1.34	2.45	1.44	1.53	2.36
栃 木 県	1.04	1.11	1.00	1.79	1.02	1.15	1.38
群 馬 県	1.04	1.08	1.05	1.84	1.04	1.83	1.27
新 潟 県	1.20	1.18	1.31	0.97	1.18	1.73	1.24

※規模を比較した基データは本文参照

※網掛けは福島県よりも規模が大きいまたは同じ箇所

はじめに

福島県は東北地方の最南端に位置し、同じ東北地方の宮城・山形両県と接するとともに、関東地方の茨城・栃木・群馬各県に加え、中部地方の新潟県とも接しており、これらの地理的に隣接している各県とは人的・物的な交流が行われている。そのことが福島県の経済や文化的な発展につながってきたのではないだろうか。

しかし、隣県がおおよそどのような県なのかを知っていても、人口や経済の規模などはわからず、どの分野で福島県の何倍の規模があるのかイメージが湧きにくいのが実態である。本稿では統計資料をもとに、各分野における福島県と隣県6県の規模を比較した。

1. 人 口

(1) 人口規模

福島県の人口は、震災前（2010年）は200万人を超えていたが、震災後は少子化に加え県外への避難などによる人口流出によって人口減少が進み、2017年10月現在188万人まで減少している。全国順位（2017年10月現在）は第21位である（第20位

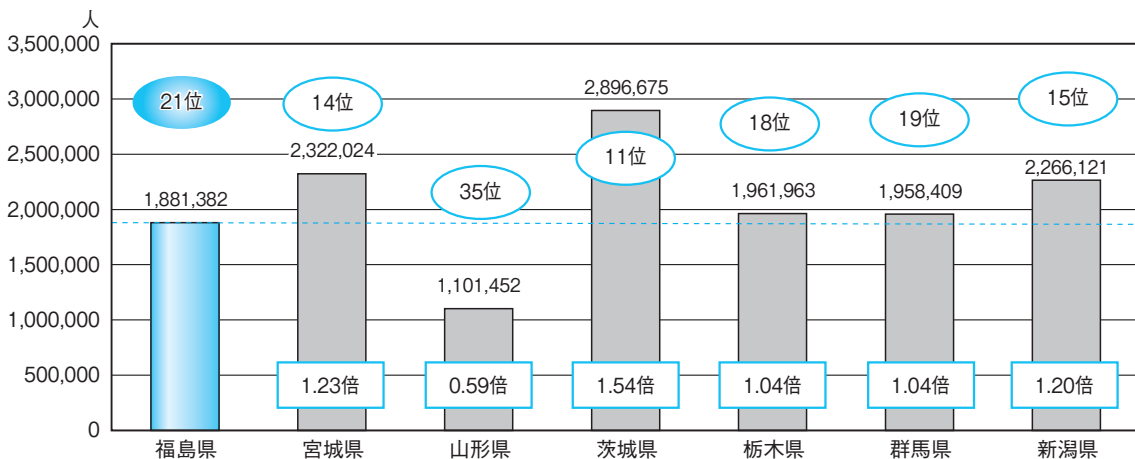
は岡山県、第22位は三重県）。

隣県の人口をみると、茨城県が福島県の1.54倍の290万人で最も多く、福島県よりも約100万人多い。茨城県は2002年に299万人と300万人の大台にせまり、2016年まで290万人台を維持している。宮城県は福島県の1.23倍の232万人、新潟県は同1.20倍の227万人であり、福島県よりも約40万人多い。栃木県、群馬県とも福島県の1.04倍の196万人であり、両県が福島県を上回っているが、震災前（2010年10月現在）は福島県が203万人に対し、群馬県、栃木県とも201万人であり、震災後に福島県が両県を下回った。山形県は福島県の0.59倍の110万人であり、福島県よりも約80万人少ない（図表1）。

(2) 各県の人口上位5市町村

各県の人口上位の市町村（2017年10月1日現在）をみると、福島県はいわき市、郡山市、福島市の順であり県人口に対する割合が10%以上の市が複数ある。同じような構造なのが群馬県であり、高崎市、前橋市、太田市など複数の人口が多い都市が分散している。茨城県は水戸市の27万人が最多であるが、同県人口に占める割合は9.3%と小さく、上位5市の合計が33.9%と他6県に比べ小

図表1 各県の人口（2017年10月現在）



資料：各県 HP「推計人口」資料
 ※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位

さい。一方、茨城県には人口5万人以上の市が22市と県内各地に多く点在している。宮城県、山形県、栃木県、新潟県は県庁所在地の都市が人口割合20%を超えており、特に宮城県は仙台市が46.8%と半数近くが集中している（図表2）。

(3) 年齢階層別構成比

各県の年齢階層別人口構成比（2017年10月現在）をみると、30歳代以下の年齢層は、宮城県

が40.5%と最も大きく、北関東3県は37~38%台、福島県、山形県、新潟県はいずれも35%台となっている。一方、70歳代以上の年齢層は、宮城県が18.1%と最も小さく、福島県は21.2%で、福島県よりも大きいのは山形県の22.8%と新潟県の22.5%である。人口の年齢構成は、宮城県が最も若く、福島県は山形県と新潟県に近い構成となっている（図表3）。

図表2 各県の人口上位5市町村（2017年10月1日現在）

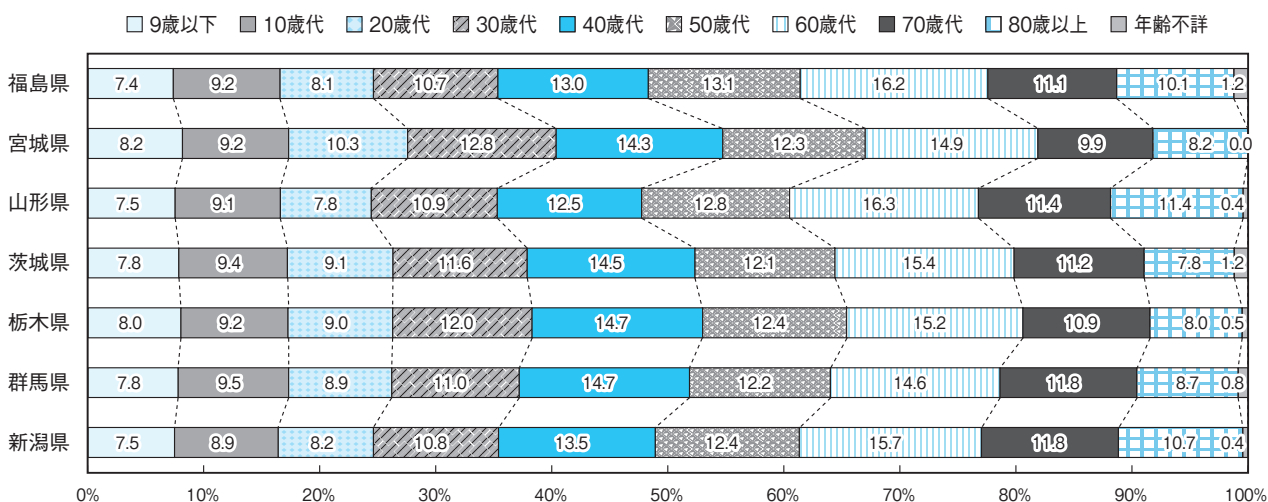
（単位：人、%）

順位	福島県			宮城県			山形県			茨城県		
	市名	人口	割合	市名	人口	割合	市名	人口	割合	市名	人口	割合
1	いわき市	345,667	18.4	仙台市	1,086,377	46.8	山形市	252,095	22.9	水戸市	270,775	9.3
2	郡山市	334,636	17.8	石巻市	144,762	6.2	鶴岡市	126,499	11.5	つくば市	233,549	8.1
3	福島市	291,013	15.5	大崎市	131,709	5.7	酒田市	103,871	9.4	日立市	180,781	6.2
4	会津若松市	121,925	6.5	登米市	80,232	3.5	米沢市	83,944	7.6	ひたちなか市	155,970	5.4
5	須賀川市	76,626	4.1	名取市	78,082	3.4	天童市	62,061	5.6	古河市	140,556	4.9
5市合計		1,169,867	62.2		1,521,162	65.5		628,470	57.1		981,631	33.9
順位	栃木県			群馬県			新潟県					
	市名	人口	割合	市名	人口	割合	市名	人口	割合	市名	人口	割合
1	宇都宮市	520,197	26.5	高崎市	370,176	18.9	新潟市	804,152	35.5			
2	小山市	167,535	8.5	前橋市	334,718	17.1	長岡市	271,722	12.0			
3	栃木市	157,645	8.0	太田市	221,403	11.3	上越市	193,777	8.6			
4	足利市	147,699	7.5	伊勢崎市	209,895	10.7	三条市	97,480	4.3			
5	佐野市	117,521	6.0	桐生市	111,554	5.7	新発田市	97,184	4.3			
5市合計		1,110,597	56.6		1,247,746	63.7		1,464,315	64.6			

資料：各県 HP「推計人口」資料

※5市合計の割合欄は上位5市の人口が県人口に占める割合を示す

図表3 年齢階層別人口構成比（2017年10月現在）



資料：各県 HP「推計人口」資料

※宮城県と茨城県は2017年1月現在、山形県は2016年10月現在

2. 県内総生産

(1) 県内総生産規模

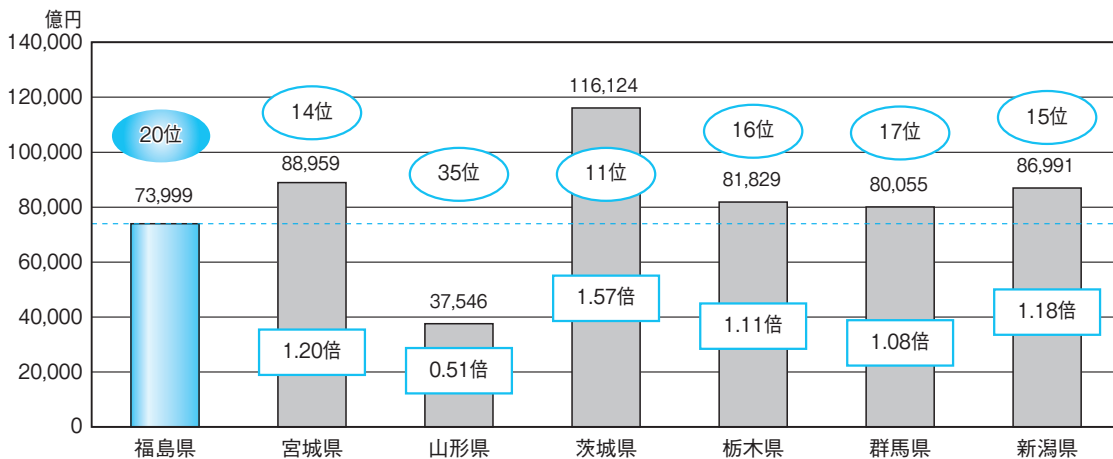
福島県の県内総生産（2014年度の名目値）は7兆3,999億円、三重県と岡山県の間となる全国第20位である。人口が全国第21位であり、人口規模に近い県内総生産規模となっている。

隣県の県内総生産をみると、宮城県は福島県の1.20倍の8兆8,959億円、茨城県は同1.57倍の11兆6,124億円、全国順位は人口順位と同じ第14位と

第11位である。一方、人口規模が福島県に近い栃木県と群馬県は、栃木県が同1.11倍の8兆1,829億円、群馬県が同1.08倍の8兆55億円で、全国順位が第16位と第17位と、人口規模に比べ規模が大きい。これは栃木・群馬県が首都圏に位置し、大規模の工場が多く立地することなどが要因であると考えられる（図表4）。

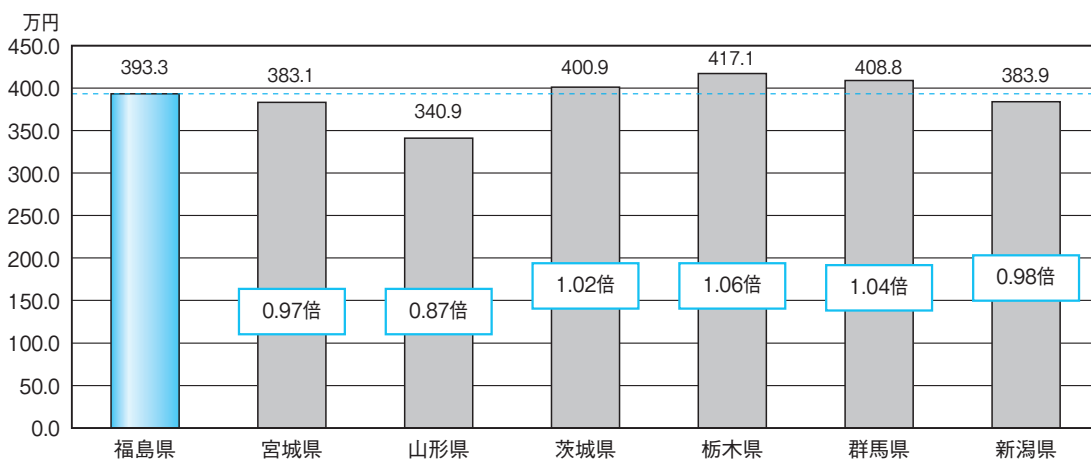
人口1人当たり県民総生産をみると、北関東3県は福島県を上回り、宮城・山形・新潟の3県は福島県を下回っている。北関東3県もそうである

図表4 各県の県内総生産（2014年度）



資料：内閣府「県民経済計算について」
 ※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位

図表5 人口1人当たり県内総生産（2014年度）



資料：内閣府「県民経済計算について」を当研究所加工
 ※各県の倍数は対福島県比
 ※算出に使用した人口は図表1の2017年10月現在の数値

が、福島県は製造品出荷額等が大きいことで、宮城県よりも人口1人当たりの県内総生産額が大きくなっているものと思われる（図表5）。

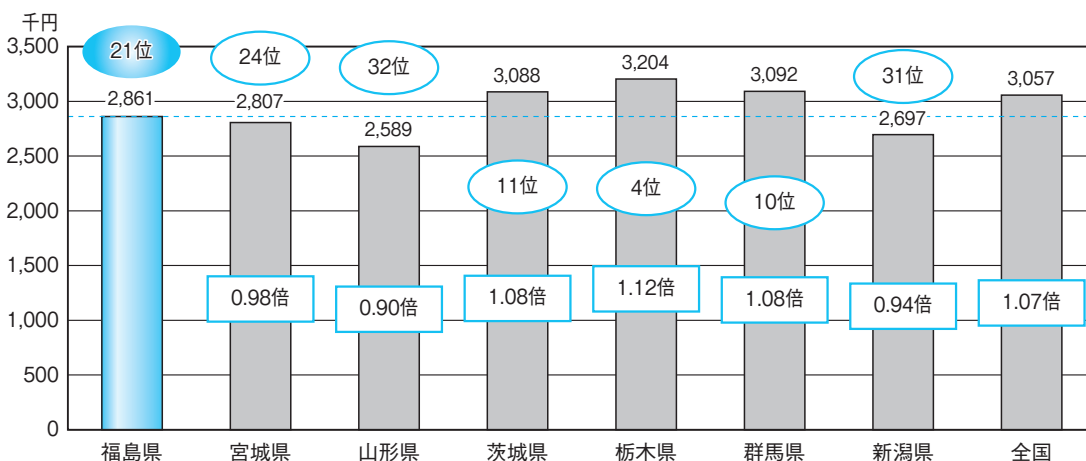
(2) 1人当たり県民所得

1人当たり県民所得*（2014年度）をみると、福島県は全国第21位の2,861千円であり、人口と同じ順位である。それに対し、宮城県は全国第24位の2,807千円、新潟県は同第31位の2,697千円となっており、人口規模に比べて県内総生産は低め

である。栃木県と群馬県は全国順位が第4位、第10位と上位に位置しており、人口に比べて産業が集積していることがわかる。山形県は第32位であり、人口に比べて順位がやや上位である（図表6）。

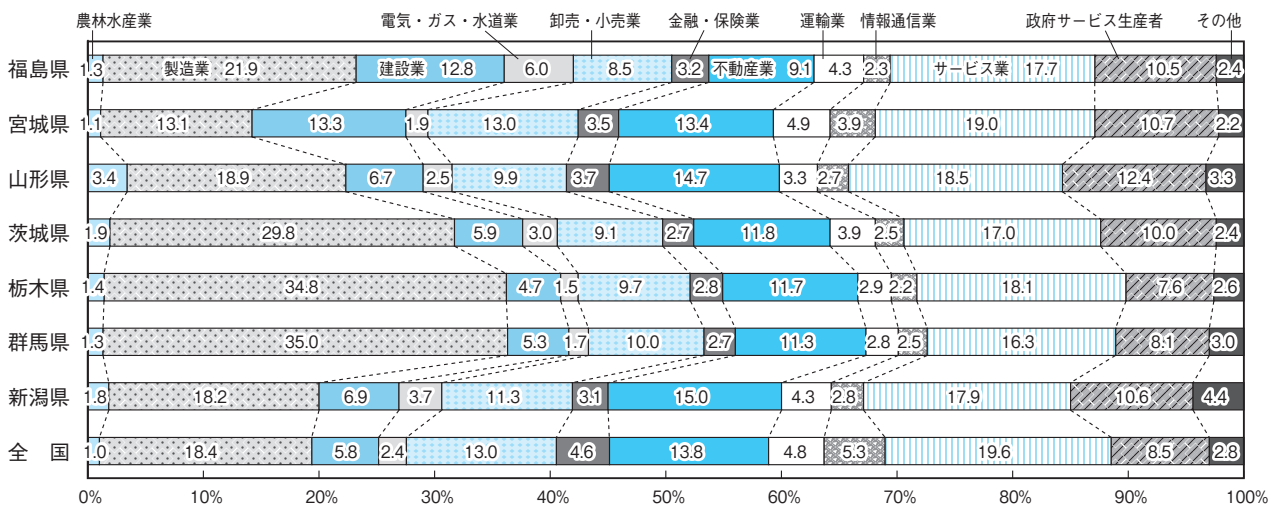
*県民所得…生産活動で生み出された付加価値を、生産活動に参加した経済主体に分配したもので、県民雇用者報酬（給与・退職金など）、財産所得（利子や賃貸料などの財産収入）、企業所得（営業利益）からなる。

図表6 各県の人口1人当たり県民所得（2014年度）



資料：内閣府「県民経済計算について」
 ※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位

図表7 県別の県内総生産の業種別構成比（2014年度：名目値）



資料：各県 HP「県民経済計算」

(3) 業種別構成比

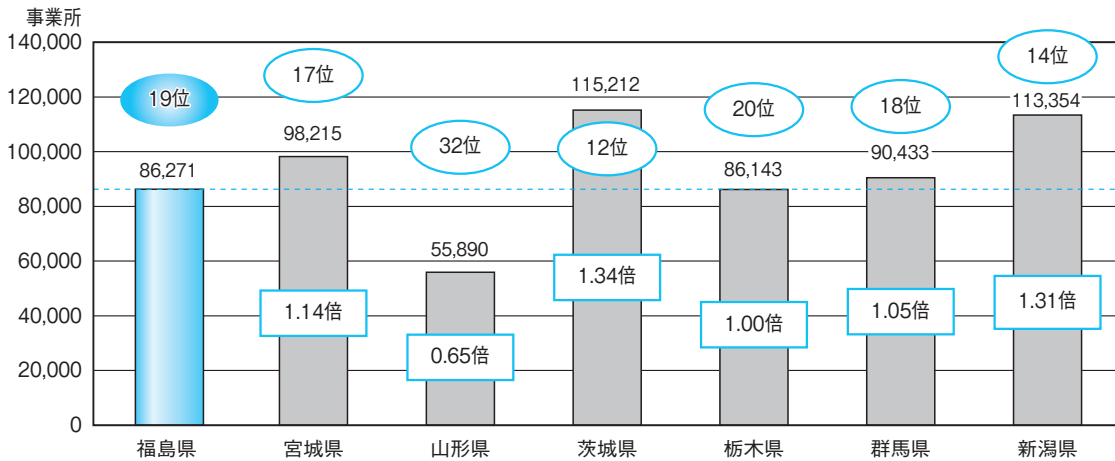
各県の業種別の県内総生産構成比（2014年度）をみると、福島県は製造業21.9%、サービス業17.7%、建設業12.8%などとなっている。製造業の構成比が福島県に近い県は、山形県と新潟県である。一方、宮城県は製造業は13.1%と小さく、北関東3県は30%前後と構成比が大きい。震災復興の影響から、建設業は福島県と宮城県が10%台を占めている。新潟県は7県のなかで、最も全国平均に近い構成比となっている（図表7）。

3. 事業所数

(1) 事業所数規模

福島県の民営事業所数（2016年6月1日現在）は8万6,271事業所で全国第19位である。人口の全国順位は第21位であり、人口に比べ事業所数が多い。人口規模が福島県に近い栃木・群馬両県は、栃木県が8万6,143事業所で同第20位、群馬県が9万433事業所で同第18位となっており、福島県の前後の順位に位置する。宮城県と新潟県は人口順位と逆転している。福島県と新潟県は県土面積

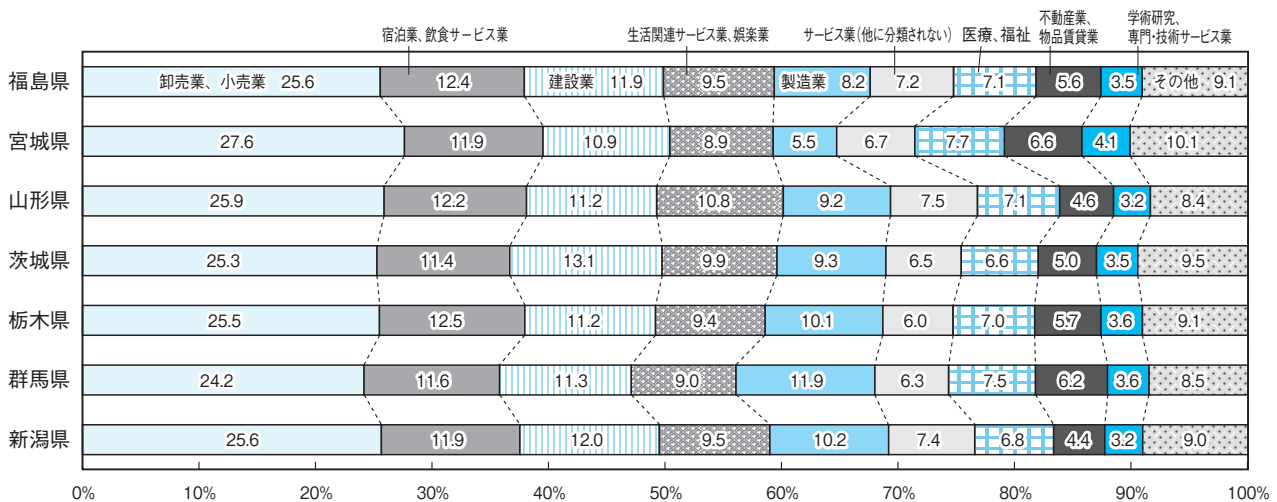
図表8 各県の民営事業所数（2016年6月1日現在）



資料：総務省統計局「経済センサス」

※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位。事業内容不詳の事業所は含まない

図表9 各県民営事業所数の業種別構成比（2016年6月1日現在）



資料：総務省統計局「経済センサス」

が広いこともあり、その分、事業所が各地に点在することで人口規模よりも事業所数が多くなっていることが考えられる（図表8）。

(2) 業種別構成比

各県の業種別民営事業数の構成比（2016年6月1日現在）をみると、福島県は「卸売業、小売業」25.6%、「宿泊業、飲食サービス業」12.4%、「建設業」11.9%などとなっている。7県とも「卸売業、小売業」が首位なのは同じであるが、第2位は茨城県と新潟県が「建設業」、他の5県が「宿泊業、飲食サービス業」となっている。工業の盛んな栃木県と群馬県は「製造業」が10%を超える一方、宮城県は「製造業」が5.5%と低い構成比となっている（図表9）。

4. 工業

(1) 製造品出荷額等の規模

福島県の製造品出荷額等^{*}（2015年）は4兆9,157億円、京都府と新潟県の間となる全国第22位である。福島県は東北6県のなかで第1位であり、宮城県は福島県の0.82倍の4兆171億円、山形県は同0.52倍の2兆5,510億円である。

一方、北関東3県をみると、茨城県は福島県の2.45倍の12兆376億円であり、全国第8位と全国上位に位置する。群馬県は同1.84倍の9兆504億円、栃木県は同1.79倍の8兆8,022億円とそれぞれ福島県を大きく上回っている（図表10）。

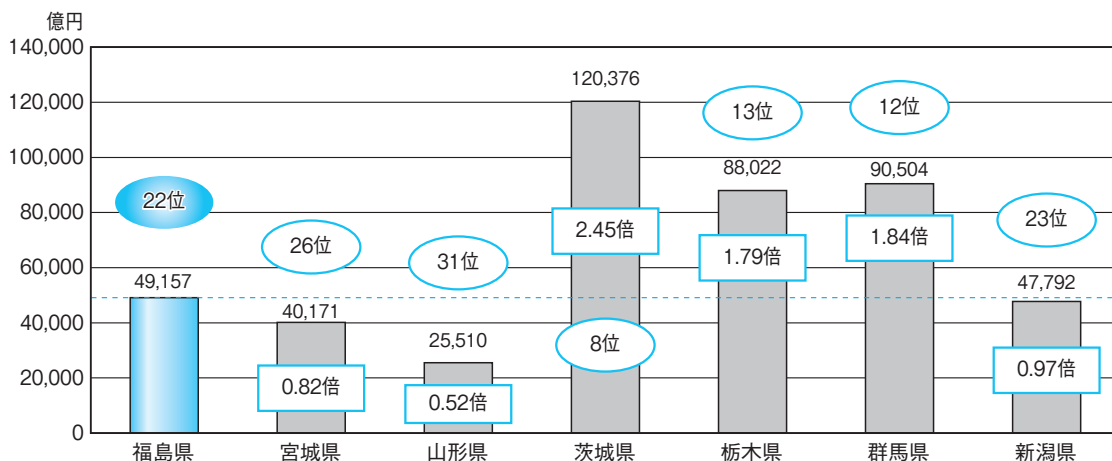
人口1人当たり製造品出荷額等をみると、県内総生産と同じく福島県は宮城・山形・新潟の3県を上回っているが、北関東3県を下回っている。特に群馬県は福島県と人口規模が同じであるが200万円上回っており、同県は地理的な優位性を活かして工場が集積していることによるものと考えられる。また、山形県は人口が福島県の0.59倍に対し、製造品出荷額等の1人当たりでは同0.89倍であり、人口規模に比べ工業規模が大きい（図表11）。

※製造品出荷額等…製造品出荷額（その事業所の所有に属する原材料により製造されたもの）、加工賃収入額（他企業の所有に属する主要原材料によって製造されたものなど）、その他の収入額（転売収入など）の合計額を指す。

(2) 製造品出荷額等の上位市町村

東北における製造品出荷額等（2015年）の上位

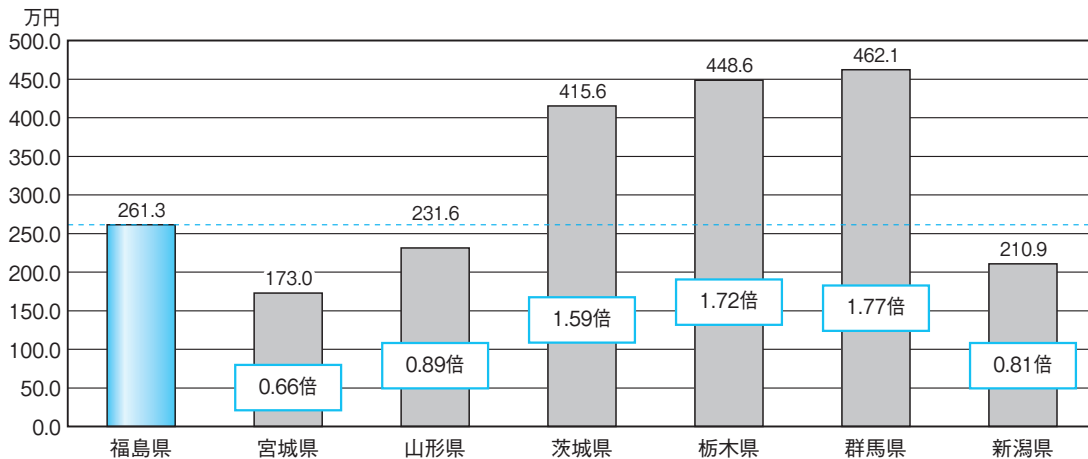
図表10 各県の製造品出荷額等（2015年）



資料：総務省統計局「経済センサス」

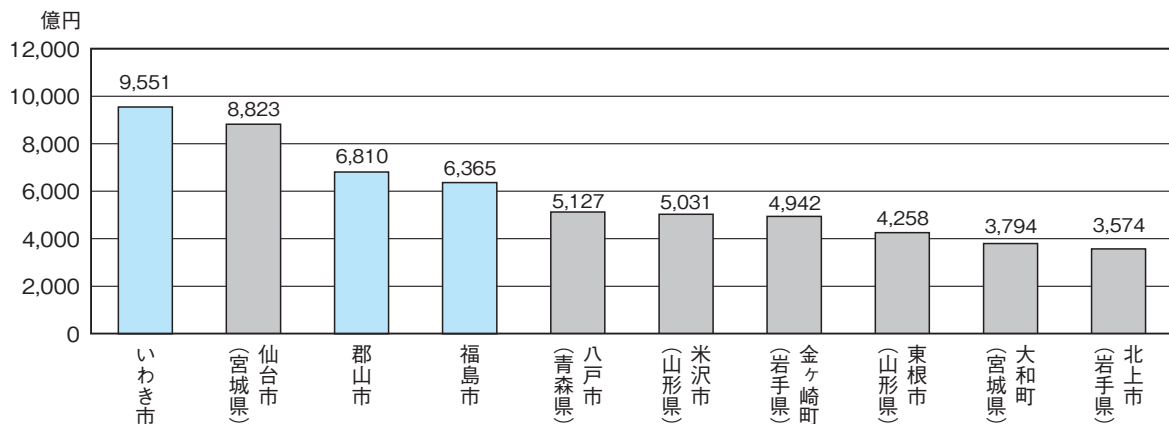
※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位

図表11 人口1人当たり製造品出荷額等（2015年）



資料：総務省統計局「経済センサス」を当研究所加工
 ※各県の倍数は対福島県比
 ※算出に使用した人口は図表1の2017年10月現在の数値

図表12 東北の製造品出荷額等上位10市町村（2015年）



資料：総務省統計局「経済センサス」

10市町村をみると、福島県からは、いわき市が首位で9,551億円、郡山市が第3位で6,810億円、福島市が第4位で6,365億円と上位に3市が位置する。その他、上位には主要産業が石油などの仙台市、食料品やパルプなどの八戸市、情報通信機械の米沢市に加え、自動車産業が進出している金ヶ崎町（岩手県）と大和町（宮城県）が上位10市町村に入っている（図表12）。

北関東3県と新潟県の県内第1位の都市をみると、北関東3県で最も大きいのは、自動車メーカーの本工場がある太田市（群馬県）の2兆8,837億円であり、いわき市の3倍の規模となっている。

飲料・たばこなどの宇都宮市が2兆973億円、鹿島臨海工業地帯がある化学などの神栖市（茨城県）が1兆5,957億円であり、いわき市を大きく上回っている。新潟市は化学やパルプ、食料品が盛んで1兆945億円といわき市を上回っている。（図表13）。

いわき市を上回る市町村は、他にも、日立市（茨城県）、栃木市（栃木県）、伊勢崎市（群馬県）、郡山市を上回る市町村は、ひたちなか市、土浦市、鹿嶋市、古河市（以上茨城県）、小山市（栃木県）、高崎市（群馬県）と、大きな工業都市が北関東3県に点在している。福島市は長岡市（新潟県）や

自動車工場が立地する大泉町（群馬県）や上三川町（栃木県）の両町と同じ規模となっている。

(3) 産業3類型別の製造品出荷額等の構成比

各県の産業3類型^{*}別の製造品出荷額等の構成比（2015年）をみると、福島県は加工組立型が48.0%、基礎素材型が39.3%、生活関連その他型が12.7%となっている。福島県は情報通信機械の構成比が高いことなどにより加工組立型が基礎素材型を上回っている。

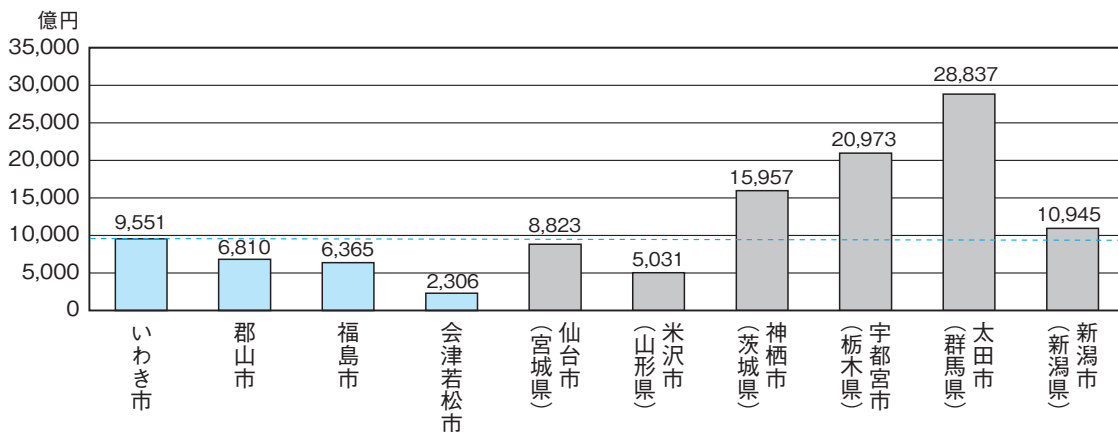
福島県と同じく加工組立型が基礎素材型を上回っている県は、山形県、栃木県、群馬県である。

山形県は電子部品・デバイスや情報通信機械、栃木県と群馬県は輸送用機械により加工組立型が主体となっており、特に群馬県は輸送用機械が全体の4割近くを占めていることで、加工組立型が58.1%と7県の中で最も大きい。

一方、茨城県と新潟県は基礎素材型が加工組立型を上回っている。茨城県は化学や鉄鋼、新潟県は化学などによって、基礎素材型が主体となっている。宮城県は基礎素材型と加工組立型が同程度である（図表14）。

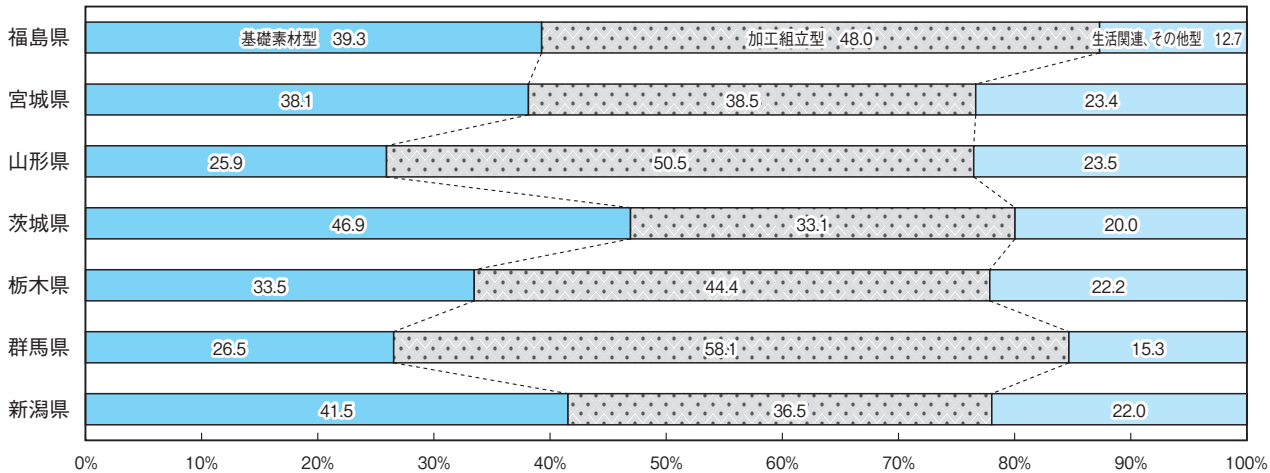
^{*}産業3類型…基礎素材型（木材、紙・パルプ、化学、石油、プラスチック、ゴム、窯業、鉄

図表13 県内及び隣県都市の製造品出荷額等（2015年）



資料：総務省統計局「経済センサス」
^{*}他県は県第1位の都市

図表14 産業3類型別の製造品出荷額等構成比（2015年）



資料：総務省統計局「経済センサス」

鋼、非鉄、金属)、加工組立型(はん用、生産用、業務用、電子、電気、情報通信、輸送用)、生活関連・その他型(食料、飲料・たばこ、繊維、家具、印刷、皮革、その他)の3つに分類される。

年)は1兆9,414億円、栃木県と岐阜県の間の全国第19位である。福島県の人口順位は全国第21位であり、人口規模よりもやや大きい。

隣県の販売額をみると、宮城県は福島県の1.22倍で2兆3,627億円、茨城県は同1.44倍の2兆7,863億円など福島県を上回り、栃木県は同1.02倍の1兆9,710億円と福島県と同程度の規模となっている。福島県との規模を比較すると、おおよそ人口規模に比例している(図表15)。

人口1人当たり小売業商品販売額をみると、県全体の商品販売額では福島県よりも宮城県、茨城

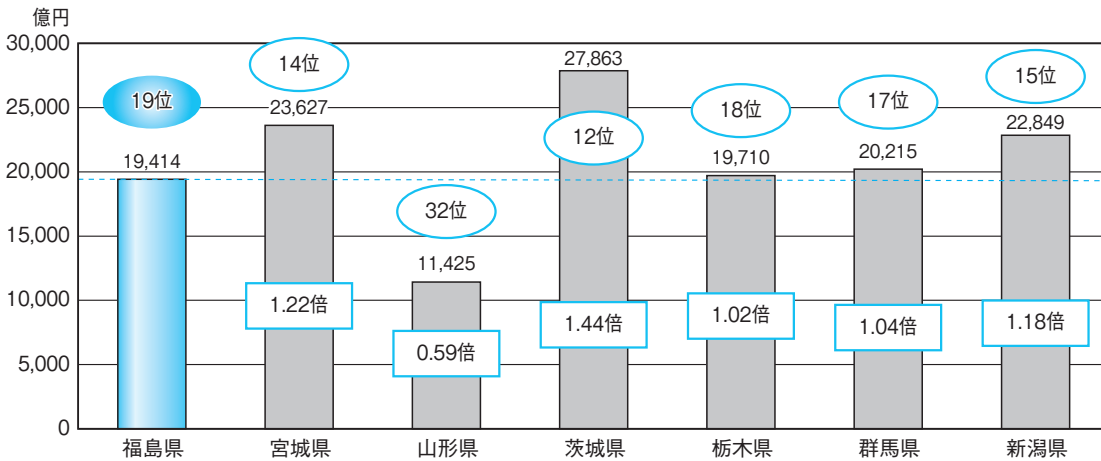
5. 商業

(1) 小売業

① 商品販売額規模

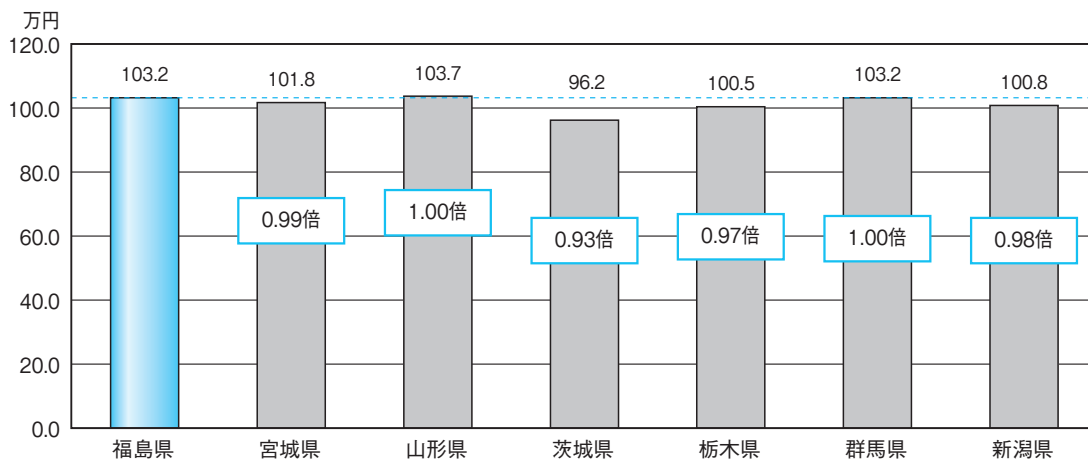
福島県の小売業における年間商品販売額(2014

図表15 各県の小売業年間商品販売額(2014年)



資料：経済産業省「商業統計」
 ※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位

図表16 人口1人当たり小売業商品販売額(2014年)



資料：経済産業省「商業統計」を当研究所加工
 ※各県の倍数は対福島県比
 ※算出に使用した人口は図表1の2017年10月現在の数値

県、新潟県のほうが大きい規模であるが、人口1人当たりになると、福島県がこれら3県を上回る。山形県は福島県をやや上回っており、福島県や山形県は人口に比べ販売額が大きい。一方、茨城県は人口1人当たりになると他6県よりも規模が小さく、東京などへの通勤者が多いなど、他県への人の流動が多いことが影響しているものとみられる(図表16)。

② 各県の上位5市町村

各県の小売業年間商品販売額上位(2014年)の市町村をみると、福島県は郡山市が4,014億円(構

成比20.7%)、いわき市3,532億円(同18.2%)と、両市が人口順とは逆になっている。

他の県をみると、上位2市は人口順と変わっていない。人口構成比に比べ、上位の都市に集中する傾向がみられ、仙台市は人口構成比46.8%に対し1兆2,333億円(同52.2%)、山形市は人口構成比22.9%に対し3,204億円(同28.0%)となっている。茨城県を除く6県で、上位5市が県全体の6割以上を占めている。一方、茨城県は上位5市でも4割未満となっている(図表17)。

福島県の都市と隣県の都市の商品販売額の規模

図表17 各県の小売業年間商品販売額上位5市町村(2014年)

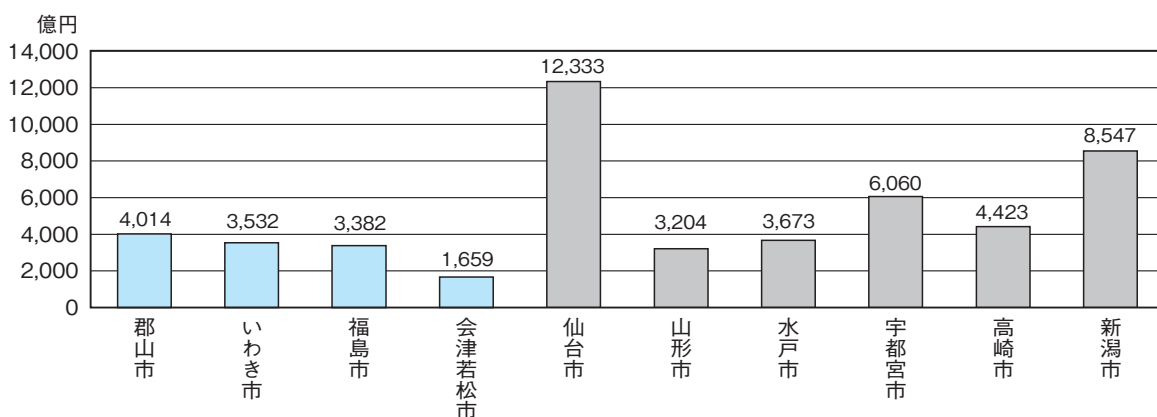
(単位:百万円、%)

順位	福島県				宮城県			山形県			茨城県		
	市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比	
1	郡山市	401,373	20.7	仙台市	1,233,343	52.2	山形市	320,448	28.0	水戸市	367,324	13.2	
2	いわき市	353,193	18.2	石巻市	163,222	6.9	鶴岡市	124,840	10.9	つくば市	244,408	8.8	
3	福島市	338,213	17.4	大崎市	129,248	5.5	酒田市	115,627	10.1	土浦市	172,488	6.2	
4	会津若松市	165,872	8.5	名取市	97,424	4.1	米沢市	95,321	8.3	ひたちなか市	156,028	5.6	
5	須賀川市	76,680	3.9	登米市	84,578	3.6	天童市	62,191	5.4	日立市	147,910	5.3	
5市合計		1,335,331	68.8		1,707,815	72.3		718,427	62.9		1,088,158	39.1	

順位	栃木県			群馬県			新潟県		
	市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比
1	宇都宮市	605,982	30.7	高崎市	442,343	21.9	新潟市	854,656	37.4
2	小山市	179,466	9.1	前橋市	373,407	18.5	長岡市	277,151	12.1
3	足利市	146,008	7.4	太田市	231,141	11.4	上越市	209,336	9.2
4	那須塩原市	140,812	7.1	伊勢崎市	202,891	10.0	三条市	101,576	4.4
5	栃木市	135,226	6.9	館林市	100,777	5.0	新発田市	98,948	4.3
5市合計		1,207,494	61.3		1,350,559	66.8		1,541,667	67.5

資料: 経済産業省「商業統計」

図表18 県内及び隣県都市の小売業年間商品販売額(2014年)



資料: 経済産業省「商業統計」

を比べると、福島県内で最も大きいのは郡山市の4,014億円であるが、仙台市は約3倍の1兆2,333億円、新潟市は約2倍の8,547億円である。人口規模におおよそ比例した小売業販売額の規模となっている（図表18）。

(2) 卸売業

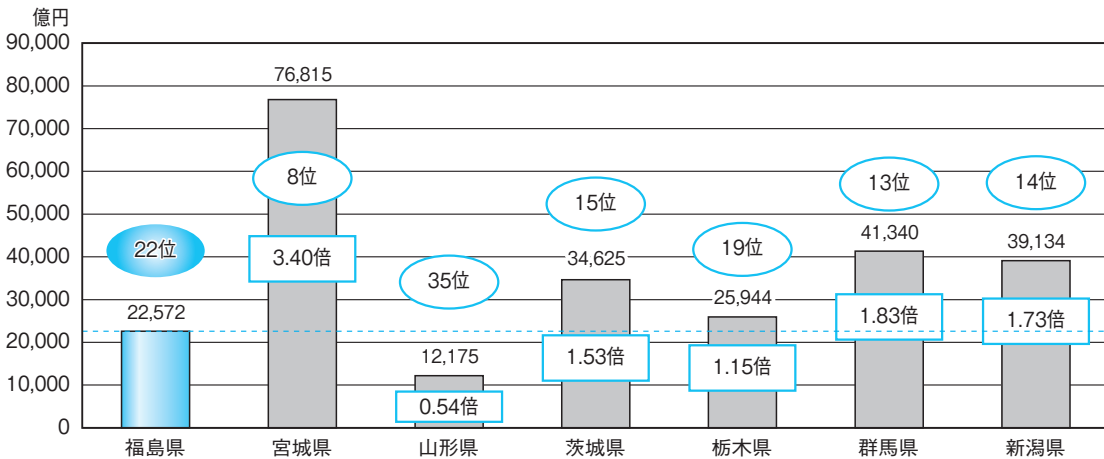
① 商品販売額規模

福島県の卸売業における年間商品販売額（2014年）は2兆2,572億円と、岐阜県と鹿児島県の間

の全国第22位である。福島県の人口順位は全国第21位であり、人口規模とほぼ同順位となっている。

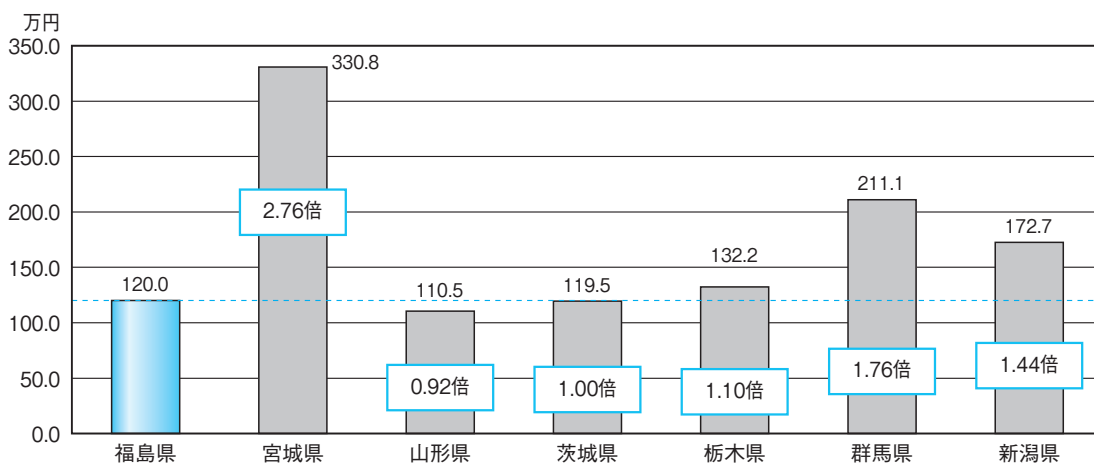
隣県の販売額をみると、宮城県は福島県の3.40倍で7兆6,815億円、群馬県は同1.83倍の4兆1,340億円、新潟県は同1.73倍の3兆9,134億円など福島県を上回っている。山形県は同0.54倍の1兆2,175億円である。宮城県は全国第8位であり、福島県や山形県なども営業テリトリーとして、人口規模以上の販売額が集中しているものと考えられる（図表19）。

図表19 各県の卸売業年間商品販売額（2014年）



資料：経済産業省「商業統計」
 ※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位

図表20 人口1人当たり卸売業商品販売額（2014年）



資料：経済産業省「商業統計」を当研究所加工
 ※各県の倍数は対福島県比
 ※算出に使用した人口は図表1の2017年10月現在の数値

人口1人当たり卸売業商品販売額をみると、福島県の120.0万円に対し、宮城県は2.76倍の330.8万円あり、宮城県には人口に比べ卸売業の規模が大きい。群馬県は福島県の1.76倍の211.1万円あり、同県は加工組立型の工場が多数立地していることなどから、機械器具卸売業の商品販売額が大きい(図表20)。

② 各県の上位5市町村

各県の卸売業年間商品販売額が上位の市町村をみると、福島県は郡山市が8,512億円(構成比

37.7%)、いわき市4,494億円(同19.9%)など、第1位の都市では50%に達していないものの、上位5市に9割近くが集中している。

仙台市は87.0%の6兆6,855億円となっている。他の県をみると、茨城県を除き、県第1位の都市に50%以上が集中している。小売業と異なり、卸売業は特定の都市の販売額が突出する傾向にある(図表21)。

福島県の都市と隣県の都市の商品販売額の規模を比べると、仙台市は福島県内で最も大きい郡山

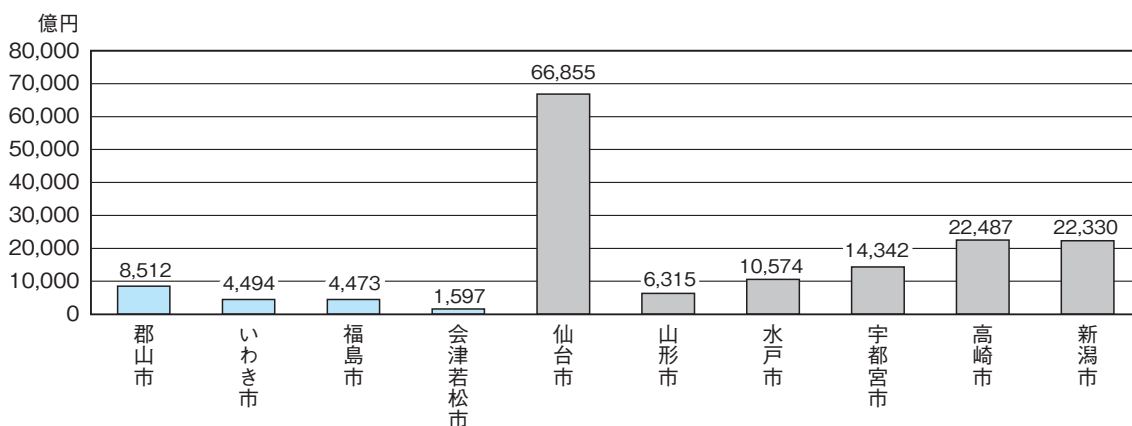
図表21 各県の卸売業年間商品販売額上位5市町村(2014年)

(単位:百万円、%)

順位	県名	福島県			宮城県			山形県			茨城県		
		市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比	市町名	販売額	構成比
1	郡山市	851,193	37.7	仙台市	6,685,503	87.0	山形市	631,543	51.9	水戸市	1,057,429	30.5	
2	いわき市	449,393	19.9	大崎市	111,142	1.4	酒田市	128,148	10.5	つくば市	485,905	14.0	
3	福島市	447,298	19.8	石巻市	109,385	1.4	天童市	102,846	8.4	土浦市	293,595	8.5	
4	会津若松市	159,699	7.1	岩沼市	108,721	1.4	米沢市	74,479	6.1	茨城町	210,005	6.1	
5	本宮市	57,837	2.6	名取市	106,390	1.4	鶴岡市	69,877	5.7	日立市	170,794	4.9	
5市合計		1,965,420	87.1		7,121,141	92.7		1,006,893	82.7		2,217,728	64.1	
順位	県名	栃木県			群馬県			新潟県					
		市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比	市名	販売額	構成比			
1	宇都宮市	1,434,238	55.3	高崎市	2,248,719	54.4	新潟市	2,232,960	57.1				
2	小山市	203,198	7.8	前橋市	631,751	15.3	長岡市	592,910	15.2				
3	佐野市	156,422	6.0	太田市	453,247	11.0	三条市	271,282	6.9				
4	栃木市	142,432	5.5	伊勢崎市	255,891	6.2	上越市	190,296	4.9				
5	足利市	112,561	4.3	館林市	135,077	3.3	燕市	145,313	3.7				
5市合計		2,048,851	79.0		3,724,685	90.1		3,432,761	87.7				

資料: 経済産業省「商業統計」

図表22 県内及び隣県都市の卸売業年間商品販売額(2014年)



資料: 経済産業省「商業統計」

市の約8倍の6兆6,855億円、高崎市は約3倍の2兆2,487億円となっている。仙台市の卸売販売額の規模が他市よりも極めて大きいことがわかる（図表22）。

6. 農業

(1) 農業産出額の規模

福島県の農業産出額（2016年）は2,077億円、福岡県と埼玉県との間の全国第17位である。震災前の2010年には全国第11位であったが、原発事故の影響で避難区域となり営農できない地域が発生したことや、風評被害の影響により福島県産農産物の他県産との価格差が生じたことなどから、農業産出額の順位が大きく低下した。

宮城県は福島県の0.89倍の1,843億円と福島県をやや下回り、山形県は同1.15倍の2,391億円と上回っている。北関東3県をみると、茨城県は福島県の2.36倍で全国第2位の4,903億円と、全国屈指の農業県である。栃木県は2,863億円で全国第9位、群馬県は2,632億円で同第10位であり、北関東3県はいずれも上位10位以内に入っている（図表23）。

人口1人当たりの農業産出額をみると、北関東3県は農業産出額の規模が大きいことから、いずれも人口1人当たりの農業産出額が福島県を上回っている。山形県は福島県の1.97倍の21.7万円であり、単価の高い^{おうとう}桜桃（さくらんぼ）の生産量が多いことが同県の農業産出額を押し上げている（図表24）。

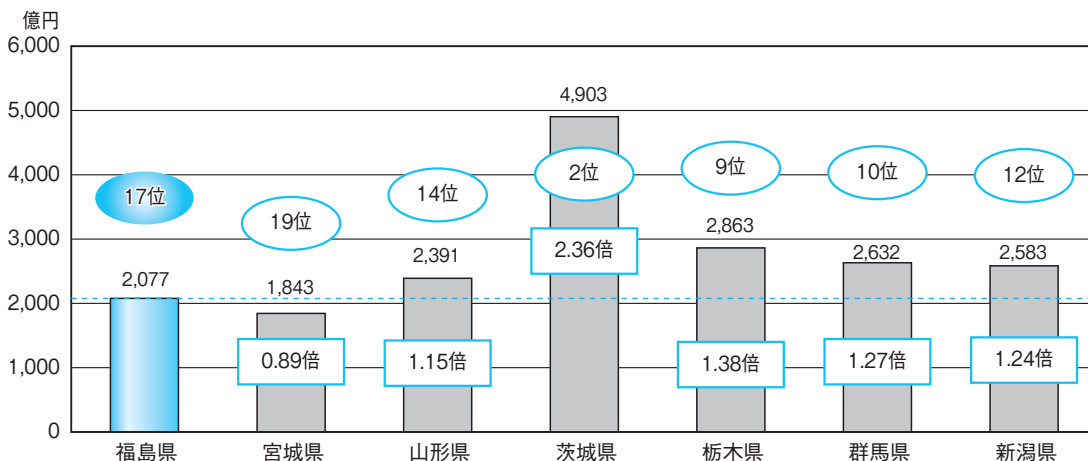
(2) 品目別構成比

福島県の農業産出額（2016年）は米33.3%、畜産23.9%、野菜23.2%の順である。宮城県は畜産が41.9%と最も大きい、米も同程度の38.6%、山形県はさまざまな果物の産地であり果実が28.9%と大きい、米が果実を上回る33.6%である。南東北3県は米の産地として米の構成比が大きい。新潟県は全国屈指の米どころであり、米が57.5%と過半数を占めている。北関東3県をみると、米は群馬県5.8%などいずれも構成比が小さく、野菜と畜産の占める構成比が大きい（図表25）。

(3) 各県の産出額上位品目

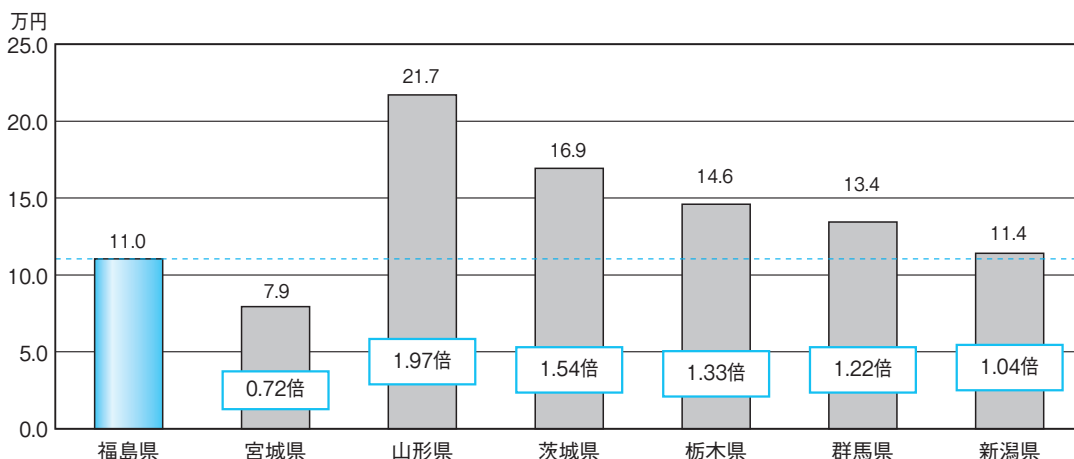
各県の農業産出額上位品目（2016年）は、群馬県を除き米が第1位である。その他、上位品目は

図表23 各県の農業産出額（2016年）



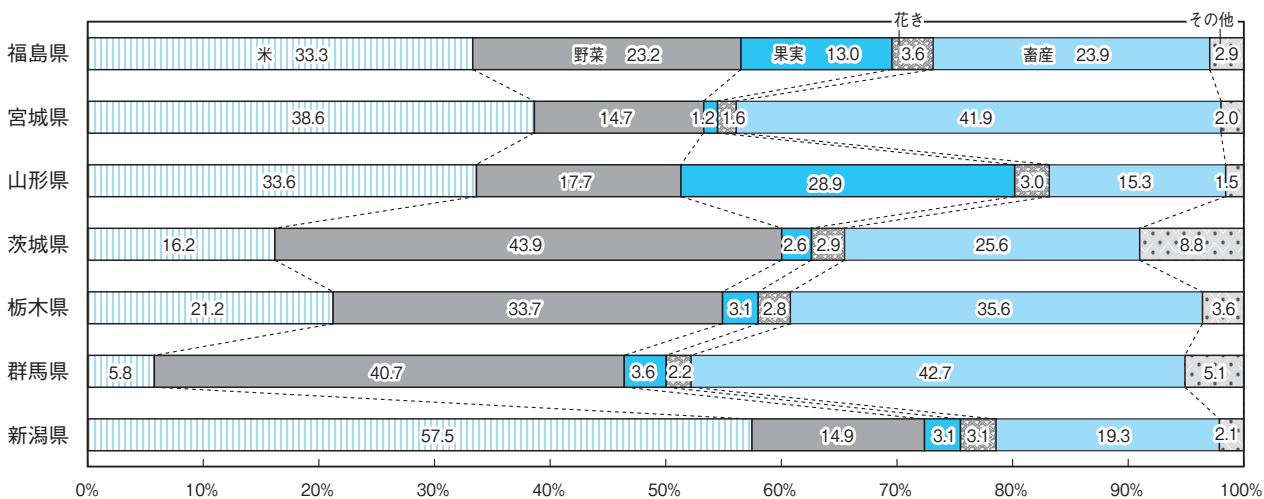
資料：農林水産省「生産農業所得統計」
 ※各県の倍数は対福島県比、順位は全国順位

図表24 人口1人当たり農業産出額（2016年）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」
 ※各県の倍数は対福島県比
 ※算出に使用した人口は図表1の2017年10月現在の数値

図表25 県別の品目別農業産出額構成比（2016年）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図表26 県別農業産出額上位5品目（2016年）

(単位：億円、%)

	1位		2位		3位		4位		5位	
	品目	産出額	品目	産出額	品目	産出額	品目	産出額	品目	産出額
福島県	米	692	鶏卵	146	肉用牛	145	もも	117	きゅうり	104
宮城県	米	712	肉用牛	271	鶏卵	166	豚	133	生乳	126
山形県	米	804	桜桃	344	豚	120	肉用牛	115	りんご	111
茨城県	米	794	鶏卵	447	豚	384	かんしょ	261	はくさい	202
栃木県	米	608	生乳	349	いちご	285	豚	256	肉用牛	211
群馬県	豚	430	生乳	260	キャベツ	197	肉用牛	153	きゅうり	152
新潟県	米	1,484	鶏卵	202	豚	130	生乳	58	だいこん	46

資料：農林水産省「生産農業所得統計」
 ※桜桃は統計では「おうとう」と表示される通称「さくらんぼ」のことであるが、平仮名表記の場合、黄桃と混同されるのでここでは漢字表記とした。

鶏卵、肉用牛、生乳、豚などが中心となっている。その一方、福島県のもも、山形県の桜桃（さくらんぼ）、栃木県のいちご、茨城県のかんしょなど、その県を代表する「顔」ともなっている農産物も上位に入っている（図表26）。

茨城県は全国第1位（2015年^{*}）の品目が、鶏卵、かんしょ、メロン、ピーマンと複数あるほか、全国上位の品目を多く有している。全国第1位の品目は、山形県が桜桃（さくらんぼ）、栃木県がいちご、もやし、群馬県がキャベツ、新潟県が米であり、全国有数の産地としてのそれぞれの品目において知名度が高い。福島県はももが第2位であるが全国第1位の品目はない。

※品目別の全国順位は2015年数値が直近データ。

7. まとめ

- (1) 人口をみると、宮城県、茨城県、新潟県は、福島県よりも人口規模が大きく、茨城県は約100万人、宮城県と新潟県はそれぞれ約40万人多い。栃木県と群馬県は、福島県と人口規模がほぼ同じである。山形県は福島県よりも約80万人少なく、年齢構成比は福島県に近い。各県の人口上位市町村をみると、宮城県のように仙台市に半数近く集中している県、福島県や群馬県のように人口が多い都市が複数分散している県など様々である。
- (2) 県内総生産の全国順位をみると、山形県（第35位）を除き福島県（第20位）を上回っており、茨城県は第11位、宮城県は第14位と全国上位である。栃木県は第16位、群馬県は第17位と、人口規模に比べ大きい。
- (3) 工業については、製造品出荷額等の全国順位をみると、茨城県が第8位、栃木県が第13位、群馬県が第12位と、全国上位に位置する。福島県には製造品出荷額等が東北第1位のいわき市があるが、北関東3県と新潟県の県第1位の都市はいずれもいわき市を上回っている。
- (4) 商業について商品販売額の全国順位をみると、小売業はおおよそ人口規模に比例している。一方、卸売業は宮城県が第8位であり、福島県や山形県なども営業テリトリーとして、人口規模以上の販売額が集中しており、特にそれが仙台市に集中している。
- (5) 農業について農業産出額の全国順位をみると、茨城県は第2位、栃木県は第9位、群馬県は第10位と、北関東3県はいずれも上位10位以内に入っている。各県の品目別農業産出額構成比は、米が約6割を占める新潟県、果実が約3割を占める山形県など各県の地域特色がみられる。
- (6) 以上を総括すると、茨城県、宮城県、新潟県は人口が多く、人口規模を活かしたスケールメリットがある。なかでも、茨城県は東京に近い利点を活かし、工業や農業が全国上位に位置する。栃木県と群馬県は人口規模が福島県と同水準であるが、工業や農業の規模が大きい。山形県は人口規模が全国中位であることから、工業や商業なども全国中位に位置するが、情報通信機械や桜桃（さくらんぼ）など得意分野で存在感を強く打ち出している。
- (7) 福島県は東北自動車道で宮城県及び栃木県と、東北中央自動車道で山形県と、常磐自動車道で茨城県と、磐越自動車道で新潟県と直接結ばれる高速交通網が整備されており、また、群馬県とは栃木県を経由して北関東自動車道で結ばれている。工業や農業などのポテンシャルが高い県と隣接していることは部品や原材料供給の場として、ものづくりに対するアドバンテージになると考えられ、隣県との相互交流がさらに進展することが期待される。

（担当：高橋宏幸）